

2 会津坂下町人権教育実践の記録

(1) 幼稚園・小学校・中学校の事例

② 坂下東幼稚園の実践



1 坂下東幼稚園の教育目標

一人一人が、環境にかかわりながら自己を発揮し、主体的に楽しく活動できる子どもの育成
 ○げんきな子 ○なかよくあそべる子 ○かんがえる子

2 人権教育に関する目標

- ・身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを身につける。(生命尊重)
- ・友だちと様々な経験を重ねる中で、して良いことや悪いことがわかり、相手の気持ちに気付いて行動できるようになる。(道徳性・規範意識)
- ・友だちと一緒に考えたり、工夫したり、協力したりすることが楽しくなる。(共同性)

3 坂下東幼稚園の取り組み

(1) 実践計画

月 日	内 容	備 考
5月～7月	人権教育 かいこの飼育 孵化からさなぎへ ・自分の役割に責任を持ち、友だちと協力しながら活動を進める。 ・自分で考えて感じる体験をする	5歳児
6月28日	要請訪問 授業研究 ・友だちとのつながりを深める。 ・わらべうた、集団遊びを楽しむ。 ・教師や友だちと遊ぶことを楽しむ。	全学年
7月12日	園内研究 ・いろいろな友だちと関わり、集団遊びを楽しむ。	4歳児
8月下旬～	人権教育 絵本の読み聞かせからマグネット遊びへ ・友だちと仲良くすると楽しいことに気づく。	3歳児
8月30日	園内研究 ・のびのびと体を動かし、友だちと一緒にルールを守って遊びを進める楽しさを味わう。	5歳児
9月28日	園内研究 ・力を合わせて大玉ころがしをする。	3歳児
10月23日	園内研究 ・友だちと思いや考えを出し合いながら発表会ごっこを楽しむ。	4歳児
10月29日	園内研究 ・発表会に向けての自分の役割がわかり、友だちと協力したり相談したりしながら、活動に取り組む。	5歳児
10月下旬～	人権教育 笠地蔵の劇遊びから発表会へ ・相手に対して思いやりの気持ちを持つ。	4歳児
12月11日	園内研究 ・教師や友だちと一緒にクリスマスバスケットを楽しむ。	3歳児
12月19日	研究のまとめについて	
1月 6日	研究のまとめについて	
1月10日	研究のまとめ	

(2) 人権教育を意識した保育の実践

実践事例 1	「かいこの飼育 孵化からさなぎへ」 自分の役割に責任を持ち、友だちと協力しながら、命の大切さや思いやりの気持ちを育む保育
3年保育 5歳児	

平成30年5月～7月 保育者 鈴木亜加理

<幼児の姿>

○クラス構成 5歳児21名 (男8名 女13名)

○戸外遊びを行うと虫や草花に興味を示し、捕まえたり摘み取ったりする姿が見られた。しかし、草花や虫を捕まえたり摘み取ったりすることに満足し、その後観察したりお世話をしたりすることではなく、死なせてしまっていた。

○グループ活動を取り入れ、話し合いやグループで共通の目的・役割りをつくることで、友だちや教師へ自分の気持ちを伝えたり、お互いの気持ちに気づけるようになってきた。

<教師の願い>

○自分の役割に責任を持ち、最後までやってみようとする気持ちや達成感を感じて欲しい。

○自分で考えて感じる体験を繰り返し、命の大切さや思いやりの気持ちが育って欲しい。

・ 幼児の姿	幼児の変容	●環境の構成 ★教師の関わり	教師の思い
5月	・ たまごの観察をする。 ・ 孵化、虫眼鏡を使って観察をする。 ・ 教師がお世話をしている姿を見る。	●かいこのたまごが入った箱をクラスに設置する。観察ができるように見やすい場所に設置し、虫眼鏡やかいこの絵本を準備する。 ★かいこを飼育することを伝える。なぜ育てるのか目的を分かりやすく話し、かいこに興味を持ったりお世話への関心に繋げたりする。	生き物に興味を持ち、絵本で調べたり、孵化まで心待ちにしたりしながら観察をしてほしい。
6月	たまごのうちは、興味を示さなかったが、孵化したかいこを見ると良く観察するようになった。しかし、「気持ち悪い」と言う幼児もいた。 ・ かいこが目で見える大きさに成長し、よく観察するようになる。 ・ 成長に気づき、絵本で調べたり、教師のお世話の手伝いをしたりするようになる。	●かいこの成長を分かりやすく写真や絵で掲示をする。 ●お世話の仕方を教師が手本になって見せる。 ★かいこの成長や変化など、幼児が発見したことや気づいたことを、付箋に書いて掲示に貼り付けていく。 ★朝の会や帰りの会などの集まりの時間を活用して、発見したことや気づいたことを発表する機会を作ったり、かいこの成長について分かりやすく説明したりする。	成長していく姿をみて、命の大切さや成長の喜びを感じ取ってほしい。また、友だちと絵本で調べたことや発見したことを伝えあい、共有・共感したり認め合ったりしてほしい。
	かいこが目で見えるようになり、「ごはんは、桑の葉だよ」「うんちがあるよ」「病気かと思ったら脱皮っていうやつだった」と、絵本や教師から聞いた知識を友だちと伝え合う姿が見られた。		
	かいこが大きくなってくると、「大きくなったね」と成長を喜ぶ姿が見られた。また、「お世話したいな」とお世話に興味を示すようになる。	●お世話に必要な準備物を事前に用意しておく。	

6月中旬 ・幼児が主体でお世話を行う。 ・友だちと相談したり協力したりしながら、かいこのお世話を進めていく。	★幼児が話し合ったり、協力したりしながらお世話を進めていく姿を認め、幼児が主体となりお世話ができるようにする。 ★幼児の提案やトラブルなどは、幼児同士で話し合うように促し、決定したり解決したりしていく姿を認めていく。
かいこに実際にふれて、嬉しそうな表情が見られた。「気持ち悪い」と言っていた幼児も積極的に参加するようになった。	飼育スペースをきれいに掃除したり、えさをあげたりする中で、面倒を見ることの大切さに気づき、責任を持ってかいこのお世話をしてほしい。
友だちと一緒に飼育スペースをきれいに掃除したり、えさをあげたりと積極的にお世話をするようになる。 「私もやりたい」とトラブルになることが増えてくると、子どもたち同士で話し合いをし、グループごとに交換しながらお世話を進めるようになった。	友だちと協力し合いながら、幼児なりのお世話の仕方を考えたり、助けあって進めていくことができるようになってほしい。
「大きくなったから部屋も大きくしたらいい」「ご飯いっぱい食べるから2回あげよう」など、お世話について考えたり相談したりする姿が見られた。	
「可愛い」「もっと大きくなってね」と可愛がる姿が見られた。また、かいこが死んでしまうと、泣いてしまう子もいた。	
7月 ・かいこの成長や変化を友だちと一緒に喜び合う。	
かいこが成長して繭をつくり始めたり、蛾になったりする変化を喜び、無事に成長したことに達成感を感じていた。	

<考察>

- はじめは、虫が苦手だったりお世話をするのが面倒くさがったりなど、かいこに興味を示さない幼児もいたが、周りの友だちの姿や話を聞いて、少しずつお世話に参加することができるようになっていった。
- また、「気持ち悪い」と言っていた幼児も、お世話をしていくうちに「可愛い」「触ってみたい」と気持ちの変化が見られ、生き物に対する優しい気持ちが育っていった。
- かいこのお世話を通してこまめな変化に気づき、面倒を見ることの大切さや責任感が身についたと感じた。
- また、園内の活動の際、小さい子の面倒を見ることに対する意識にも繋がっていった。

実践事例2	「力を合わせて大玉転がし！」 力を合わせて大玉ころがしをすることで、友だちの輪を広げながら、相手を思いやったり、関わったりすることができる保育
3年保育3歳児	

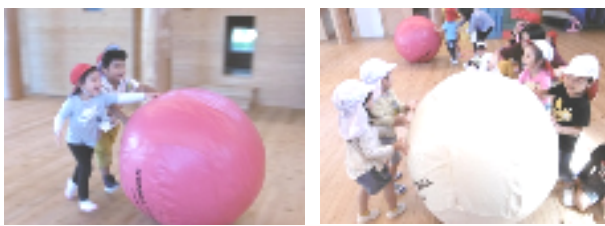
平成30年9月28日 保育者 正岡佑香

<幼児の姿>

- クラス構成 3歳児19名（男8名 女11名）
- 体を動かして遊ぶことに興味をもち、楽しむ姿が見られる。一方で、自分が一番でないと嫌だという思いが強く、途中であきらめてしまうことや、自分勝手に行う姿も見られる。

<教師の願い>

- 体をのびのびと動かす心地良さをを感じる。
- 教師や友だちと一緒に、体を動かす楽しさを知る。

・ 幼児の姿	幼児の変容	●環境構成 ★教師の関わり 教師の思い
・ クラスでペアを組み、紅白に分かれる。 ・ 大玉転がしをする。 大玉を勢い良く転がし、色々な方向に行ってしまうペアや、大玉を転がせずにいるペアもいる。また、相手に渡す時に力いっぱい渡し、受け取る幼児が転びそうになる。 ・ 「力いっぱい押せばいい！」と言いながら手を大きく振るそぶりを見せ、自分の考えを話す幼児がいる。 力いっぱい大玉を押すと、勢いが付き過ぎて大玉だけが先に行き、ついていくことが出来ずに転んでしまう。 友だちの転がす様子を見て、自分の意見を言う幼児もいたがペアの友だちに「次は頑張ろうね」「どうしたらいいのかな」などと話をする姿も見られた。 ・ 大玉ころがし2回戦目を行う。  転がす順番が来るとペアの手を取り「次だね！」と話をする幼児や、友だちが転がしている様子を見て「がんばれー！」と声をかけたり、同じチームの友だちとハイタッチをしたりする姿が見られた。 一回戦よりもまっすぐ進めるペアが多くなり、違う所に行ってしまうようになって、軌道修正を自然に行えるようになっていく。	● 体を動かす気持ち良さが分かるように、大玉の安全な転がし方を伝える。 自分の思いだけで動かしてしまい、上手く前に進めずにいる。ペアの友だちと協力することや、あわせること、自分だけで行うのではなく、相手がいるということを知ってほしい。 競技として急ぐ気持ちは分かるが、どんな風にされると嬉しいか感じたり、行ったりできるようなきっかけになってほしい。 ★ 応援している姿や友だちと力を合わせて進もうとしていたペアや、一人一人の取り組みを紹介し、認めながらも、気が付けるような問いかけを行う。 ★ 応援や大玉の渡し方も友だちの力になることを伝える。	● 教師も一緒に各チームに分かれ、応援したり励ましたりしながら、幼児の気持ちを共有・共感する。 友だちと一緒に活動をする中で、力を合わせる楽しさや難しさを感じながら、相手のことを考え行動が取れるようになってほしい。 ペアの友だちとの関わりや協力を楽しむ姿から、少しずつ輪が広がっていきけるようになってほしい。

<考察>

- ・ 大玉転がしをペアで行うことで、自分の力と相手の力を体で感じ、比べることができた。
- ・ 応援されると嬉しい気持ちになることを知り、自分が感じたことを友だちにもやってあげたいと思い行動に移すようになっていくと感じた。
- ・ 体を動かす心地良さや楽しさを感じる経験を取り入れ、心身共に豊かな成長が出来るように取り組むことが望まれる。
- ・ 今回はペア同士の友だちとの関わりが多く、自分と相手ということを感じる機会になったと思う。ペア同士に限らず、友だちの輪を広げていきながら、相手を思いやり関わられるようにしたい。

(3) 人権が尊重される環境づくり

①「安心して過ごせる園」を目指した実践

○登降時に教師から率先して元気に挨拶をすることで、徐々に幼児もできるようになってきた。受け入れの際や連絡帳を通して、保護者と幼児の様子や変化を伝えあい共有することで信頼関係も深めている。更に玄関ホールを利用し、どの教師とも気軽に相談できるようにしている。



○遊びのルール（正しい姿勢・話をしている人の顔をみる・返事・声の大きさ等）を大事にし、幼児の状態をこまめにそろえながら保育を行っている。



○園外保育や遊びの広場などでの活動では、異学年でグループを作り年長児がリーダーシップをとり年少・年中児の面倒をみている。年長児に優しく接してもらえることで安心して取り組む姿が見られる。



②「家庭・地域が一体」になるための実践

○連携実施計画のもと小学校と18回、中学校と2回の交流を実施している。回数を重ねることで親しみを持ち触れ合うことを楽しんでいる。幼稚園で頑張っている年長児もこの時ばかりは、甘える姿も見られる。



○幼稚園・保護者会・中学生ボランティアが協力し露店・体験コーナー・バザー・盆踊りなどを楽しめる夏祭りを開催している。年々参加者が増え祭りを盛り上げている。



○地域の方と触れ合いながら、伝統野菜の収穫（ごんぼ掘り）や文化芸能（かんしょ踊り・太鼓）の体験をしている。

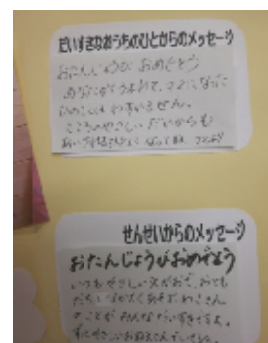


③「自分も他の人も大切にすると人権教育」の実践

○保護者手作りの米ぬか雑巾を使って、床磨きなどの清掃活動をしています。自分たちの園舎はみんなできれいにし大切にしようとする気持ちが芽生えてきた。



○毎月1回の誕生日会を行い、生まれてきたことへの感謝の機会としています。誕生日児は、ヒーローインタビューをうけ全園児から祝福されるため、子どもたちみんなが心待ちにしています。また、カードには保護者からのメッセージも添えられ、子育ての楽しさも感じられるようにしています。



○栽培活動や小動物の世話を通して、自分の役割に責任を持ってやれるようになってきた。



④「互いのよさを認め、尊重しあう」実践

○日常保育では5つのK「活躍させる」「共感・共有させる（うなづき、つけたし）」「比べさせる」「決定させる」「声をださせる」を大切にしながら、教師がモデルとなって子どもたちに接している。



「はけよい、のこった、のこった」
「がんばれー」

「水流すから、つかんでいて」
「いいよ。」



「大丈夫 痛かった」
「冷してあげるよ」
「ありがとう」

「どうする どうする」



（４）成果と課題

①成果

- 職員同士の連携を図りながら、幼児との信頼関係を深めることができた。
- 教師が人権教育を意識して保育することで幼児にも伝わり、幼児同士が思いやりの気持ちを持ってかかわることが出来るようになってきた。

②課題

- 保護者に対して、人権教育についての基本的な知識の伝え方が難しい。
- 園と家庭とが一体となって、連携を図りながら取り組むことができるようにする為の、活動の工夫が必要である。
- 保育を振り返り、評価をし、見直しをしながら、より良い人権教育に繋げていく為、環境を整えていかなければならない。